

## キリコ祭り（秋祭り）の文化の継続・継承

指導教員 石川県立大学 准教授 長野 峻介  
金沢大学 博士研究員 小林 秀輝

参加学生 石川県立大学  
五十嵐 秀平 鈴木 愛海 澤田 真優 竹内 寧蓮  
津軽 祉己 川崎 うい 小田島 佑和 清水 由理  
古川 優依 黒田 雄斗 城ヶ端 扶

# キリコ祭り(秋祭り)の文化の継続・継承

石川県立大学  
指導教員

五十嵐秀平・鈴木愛海・澤田真優・竹内寧蓮・津軽社己・川崎うい・小田島佑和・清水由理・古川優依・黒田雄斗・城ヶ端扶  
金沢大学 小林秀輝、石川県立大学 長野峻介

## 背景

- キリコ祭りは、能登半島の約200地区で開催され、生活に祭りが溶け込み、それぞれ地区独自の形態で行われる多様性などが、高い文化的な価値として、**日本遺産**にも認められている
- これまでの歴史の中で祭りを**変化させながら**、それぞれの**地域の独自性**をつくりあげてきた
- しかし、過疎化や高齢化によって祭りの維持が年々困難になってきており、“縮小”や“廃止”も選択肢として、**新たな祭りの変化**を迫られている
- 粟津地区では、これまで大学生の祭りへの参加を受け入れるなど先進的な取り組みを行い、地区の若手**粟津自強団**を中心に、祭りの“**継続**”を選び、その方法を模索している
- ただし、担ぎ手として学生が祭り当日に参加するのみで、学生と地域との**関係が限定的なもの**である。など課題がある

## キリコ祭り

- 能登半島一円で、7~10月に開催
- 「キリコ」と呼ばれる巨大な灯籠(御神灯)を担いで練りまわす。最大のもので約2t、高さ15m
- 能登半島全体 約200地区で開催
- あばれ祭り(能登町)、輪島大祭(輪島市)など有名であり、地区ごとに意匠や趣向に特徴がある
- 日本遺産に認定:「灯(あか)り舞半島 能登〜熱狂のキリコ祭り〜」



## 珠洲市三崎町 粟津地区

- 能登半島 最先端の静かな農村集落
- 約60世帯
- トキの放鳥モデル地区のひとつ
- 粟津の片姫神社の秋季祭礼としてキリコ祭りを毎年9月12日に開催
- 過疎化・高齢化の最先端



## 粟津自強団

- 古くから地区に存在する組織
- 団長をはじめ10数人の組織
- 高校卒業後~40代まで地域住民
- 昔は選ばれた人のみ所属、地域の後継者を育成する場
- 祭りを中心とした地区行事の運営を担う



## 地域と外部人材との連携のために

- 本活動は粟津地区の窓口として学生受け入れに奔走していただいた**粟津自強団の尽力**によるところが大きい
- 地域と外部人材との継続的な連携には、地域側に外部人材の受け入れに理解があること、そして実際に受け入れの経験とノウハウを蓄積していくことが重要
- 粟津地区自強団の濱山隆浩さんからのコメント
  - 今年度はコロナ禍前と同じように祭りを開催することができ、去年からの篠笛や太鼓の成果を披露する事ができて良かった。練習時間や練習場所の確保で苦労したと思うが、参加したという経験、祭りの時間を体験してもらえて嬉しかったです。次に祭りが出来る時には、今年度以上の成果が得られることを期待しています。



## まとめ

- 本年度の活動により、オンラインツールの活用や粟津自強団の協力により、学生と地域をつなぎ**外部人材と連携した祭りの運営ノウハウ**や、祭りの学習教材やお囃子の練習教材となる**アーカイブ資料**を蓄積することができた
- 令和6年度以降は、粟津地区の方々の意向を踏まえながら、粟津地区の地域コミュニティの復興に寄与するために、下記のような活動を継続していきたい
  - キリコの行燈の武者絵及び浮き字の制作  
来年度、祭りの開催は難しいと考えられるが、キリコのメンテナンスを続ける必要がある。粟津地区のキリコ行燈には武者絵や浮き字の装飾が施されており、粟津地区の方々の手で定期的に貼り替え作業がなされている。このような行燈の制作などのキリコの修繕作業を学生を交えて継続していく
  - キリコやお囃子の披露会  
学生とともに制作した行燈を取り付けたキリコを粟津地区や県立大学の大学祭などで披露し、お囃子の演奏も行い、祭りを開催できないながらも祭り文化を継承し披露できるイベントを企画する
  - 祭りのアーカイブ化  
祭り文化に関して特にこれまでに住民同士で暗黙知として共有されてきたものが地震の影響で急速に喪失する可能性があり、住民への聞き取りなどを積極的に行い祭りのアーカイブ化を早急に進める

## 目的

- キリコ祭りの文化継承のため、大学の持つ人的・物的資源を活用して
  - 外部人材と継続的・発展的に連携する仕組み作り
  - 祭りのアーカイブ化、ノウハウの蓄積・継承
- 今年度の活動では
  - コロナ禍前と同じ規模の祭りの開催に向けて連携協力
  - オンラインツールを活用し、粟津地区と学生間のネットワークづくり
  - 学生が担ぎ手、囃子方として祭りに参加できるようにノウハウの蓄積

## オンラインによる勉強会

- 珠洲と石川県立大学とをオンラインツールで結び、定期的を実施
- 粟津地区やキリコ祭りについてのレクチャー、自強団・学生お互いの自己紹介、これまで粟津地区の祭りに参加した経験のある学生による経験談、現地活動の準備・ふりかえり等を行った
- 実施日: 6/14、6/28、7/12、11/7、11/21、12/19

## お囃子の練習会

- 粟津地区の祭りでは、太鼓、篠笛を用いたお囃子が奏でられる
- 石川県立大学で自強団による直接指導
- 粟津地区での練習会ではキリコの上で練習
- 篠笛の練習には、学生自らが制作した塩ビパイプ製の篠笛を使用
- 実施日: 石川県立大学 7/30、粟津地区 8/26

## 珠洲での現地研修

- キリコの整備作業や組み立てを体験し、キリコの飾りや構造を手に触れて学んだ
- 粟津地区では、秋祭りで巡行する大型のキリコとは別のひと回り小さいキリコを出してセタの祭りが行われる。大型のキリコは組み上がった状態で専用の倉庫に保管されるが、小さいキリコは解体して保管され祭りの日に組み上げられている
- 実施日: 12/9

## 祭りにキリコの担ぎ手、囃子方として参加

- 毎年9月12日に開催される粟津地区のキリコ祭り“**粟津の秋祭り**”
- 学生たちがキリコの担ぎ手として参加することで、**コロナ禍前と同じ規模で祭りを開催できた**
- コロナ禍以降中止していた祭りを昨年度は開催したものの学生は参加できず、例年3本で巡行するキリコを担ぎ手不足により1本に縮小していた。今年度は学生の参加が可能となりキリコの担ぎ手を確保できたため、3本のキリコで巡行して祭りを開催することができた。
- 太鼓や篠笛を演奏し囃子方としても祭りの一助を担った**
- 祭りが始まった当初はごちない演奏であったが、粟津地区の方々の手ほどきを受けて、祭りが進むにつれ演奏にも慣れて行った。
- 篠笛の演奏は地域の方々の演奏レベルに全く達しておらずさらなる練習が必要である。
- 昼過ぎに始まり、片姫神社を出発した神輿とキリコは集落内の家々を巡った後、火渡りの神事“**渡御**”を行い、深夜に祭りは終了
- 巡行の途中では、担ぎ手が力を合わせてキリコや神輿を乱舞させ担ぎ上げる場面もあり、大いに盛り上がった
- 祭りの翌日には“**カスモミ**”にも参加させていただき、地域の方々との意見交換や親交を深めることができた
- カスモミ: かつてはキリコにお供えしたごちを下げた後に飲み交わしたことに由来するとされる祭りの直会や反省会としての行事
- お囃子や祭り当日の映像記録を収集したことで、学生の学習教材やお囃子の練習教材に使えるアーカイブ資料を充実させることができた
- 祭りに実際に参加することで、神事としての祭り文化やその精神性、住民の一体感などを体感し学ぶことができた

## 令和6年1月1日 能登半島地震の発生

- 能登半島地震により粟津地区は家屋の倒壊など極めて甚大な被害を受けており、今後の祭りの開催を見通すことが難しくなった
- この先、長期に及ぶ避難生活や転出者の増加などが予想され、地域コミュニティが危機に瀕している
- 奇跡的にキリコ本体は損壊を免れたが、祭りは地域コミュニティの繋がりを強めるソーシャル・キャピタルとして重要なものであり、地域コミュニティの復興のためには祭り文化や精神を継承することは欠くことはできない



## 1. 活動の要約

本活動では、珠洲市三崎町栗津地区のキリコ祭り（秋祭り）の文化の継続・継承をテーマとし、外部人材と継続的に連携する仕組み作りと祭りのアーカイブ化を活動の目的としている。活動2年目である本年度は、オンライン勉強会やお囃子練習会、栗津地区での現地研修や祭り本番への参加を実施した。本活動により、オンラインツールを活用し学生が地域住民と交流し地域や祭りについて学ぶ機会の創出、学生の担ぎ手としての参加によりコロナ禍前と同じ規模での祭りの開催、地域住民からの直接指導と動画資料を用いた自主練習によりお囃子の演奏、お囃子や祭り当日の映像記録の収集などにより、外部人材と連携した祭りの運営ノウハウの蓄積、祭りのアーカイブ化などの充実した活動ができた。しかし、令和6年1月1日に発生した能登半島地震により栗津地区は住宅の倒壊や避難生活など極めて甚大な被害を受けており、今後の祭りの開催を見通すことが難しくなった。奇跡的にキリコ本体は損壊を免れており、来年度以降については栗津地区の方々の意向を踏まえながら危機に瀕する地域コミュニティの復興に寄与するために活動を継続していきたい。

## 2. 活動の目的

能登各地に残るキリコ祭りは日本遺産にも認定されており高い文化的価値を認められているが、将来への継承が課題となっている。本活動が対象とする珠洲市三崎町栗津地区のキリコ祭りも、過疎化や高齢化によって祭りの維持が年々困難になってきている。栗津地区では、地域外から大学生の祭りへの参加を受け入れるなど先進的な取り組みを行い、地区の若手を中心に祭りの継続方法を模索しているが、学生と地域との関係が祭り当日を中心とした限定的なものである等、様々な課題がある。

そこで、祭りの継承のため、外部人材と継続的に連携する仕組み作りと祭りのアーカイブ化を、大学の持つ人的・物的資源を活用してサポートすることを本活動の目的とする。

## 3. 活動の内容

活動2年目である本年度は、オンライン勉強会やお囃子練習会、栗津地区での現地研修や祭り本番への参加を実施した。主な活動は以下のとおりである。

### ・オンラインによる勉強会

栗津地区と石川県立大学とをオンラインで結び、勉強会を定期的実施した。勉強会では、栗津地区やキリコ祭りの概要について栗津地区の担当者からレクチャーを受けたり、これまで栗津地区の祭りに参加したことのある学生に経験談を話してもらったり、現地活動の準備等を行った。

実施日：6/14、6/28、7/12、11/7、11/21、12/19

### ・お囃子練習会

キリコ祭りの太鼓と篠笛のお囃子を練習する機会を設けた。栗津自彊団の協力により、珠洲から石川県立大学に太鼓を運び入れて、自彊団団員が学生に太鼓演奏を直接指導した（写真1）。栗津地区での練習会では、キリコを倉庫から担ぎ出して祭り本番と同じくキリコに設置した太鼓を使って練習を行った（写真2）。また、篠笛の練習には、学生が制作した塩ビパイプ製の篠笛を用いた。

実施日：石川県立大 7/30、栗津地区 8/26



写真1 石川県立大学での練習会



写真2 粟津地区での練習会

・祭りにキリコの担ぎ手、囃子方として参加

毎年9月12日に開催される粟津地区のキリコ祭り“粟津の秋祭り”に参加した。キリコの担ぎ手としての参加とともに、お囃子方として太鼓、篠笛の演奏にも加わった(写真3、4、5)。12日の午後片姫神社を出発した神輿とキリコは集落内の家々を巡り、祭りは深夜に終えた。巡行の途中では、担ぎ手が力を合わせてキリコや神輿を乱舞させ担ぎ上げる場面もあり、大いに盛り上がった。祭り当日は珠洲市内に宿泊し、翌日にはカスモミに参加した(写真6)。カスモミとは、かつてはキリコにお供えしたどぶろくを下げた後に酌み交わしたことに由来するとされる祭り後の直会や反省会として行事である。

実施日：9/12、13



写真3 キリコの巡行



写真4 学生による篠笛の演奏



写真5 学生による太鼓の演奏



写真6 カスモミ

#### ・栗津地区での現地研修

栗津地区では、秋祭りで巡行する大型のキリコとは別にあるひと回り小さいキリコを出して七夕の祭りが行われている。大型のキリコは組み上がった状態で専用の倉庫に保管されるが、小さいキリコは解体して保管され祭りの度に組み上げられている。このキリコの整備作業や組み立てを体験し、キリコの飾りや構造を手に触れて学んだ（写真7、8）。

実施日：12/9



写真7 キリコの整備作業



写真8 キリコの組み立て

#### 4. 活動の成果

今年度の活動では、コロナ禍前と同じ規模で祭りを開催できたことが大きな成果としてあげられる。栗津地区ではコロナ禍以降中止していた祭りを昨年度は開催したものの学生は参加できず、例年3本で巡行するキリコを担ぎ手不足により1本に縮小していた。今年度は学生の参加が可能となりキリコの担ぎ手を確保できたため、3本のキリコで巡行して祭りを開催することができた。学生たちは祭りにキリコの担ぎ手として参加するとともに、太鼓や篠笛を演奏し囃子方としても祭りの一助を担った。

祭りが始まった当初はぎこちない演奏であったが、栗津地区の方々の手ほどきも受けて、祭りが進むにつれ演奏にも慣れて行った。祭りの翌日にはカスモミにも参加させていただき、地域の方々との意見交換や親交を深めることができた。祭りに実際に参加することで、神事としての祭り文化やその精神性、住民の一体感などを体感し学ぶことができた。

また、昨年度に引き続きオンラインツールや現地研修により、継続して大学生が地域住民と交流しながら地域や祭りについて学ぶ機会を創出することができた。昨年度の活動成果である塩ビパイプ製の篠笛を用いて、石川県立大学と栗津地区で実施した練習会での栗津自彊団からの直接指導や動画資料を用いた自主練習により、お囃子の稽古を重ねることができた。ただし、篠笛の演奏は地域の方々の演奏レベルに全く達しておらずさらなる練習が必要であるが、今年度の活動でお囃子や祭り当日の映像記録を収集したことで、学生の学習教材やお囃子の練習教材に使えるアーカイブ資料を充実させることもできた。これらにより外部人材と連携した祭りの運営ノウハウの蓄積、祭りのアーカイブ化を進めることができた。

#### 5. 今後の活動計画

令和6年1月1日に発生した能登半島地震により栗津地区は家屋の倒壊など極めて甚大な被害を受けており、今後の祭りの開催を見通すことが難しくなった。この先、長期に及ぶ避難生活や転出者の増加などが予想され、地域コミュニティが危機に瀕している。祭りは地域コミュニティの繋がりを強めるソーシャル・キャピタルとして重要なものであり、地域コミュニティの復興のためには祭り文化や精神を継承することは欠くことはできない。奇跡的にキリコ本体は損壊を免れており、来年度以降については栗津地区の方々の意向を踏まえながら栗津地区の地域コミュニティの復興に寄与するため、

下記のような活動を継続していきたい。

- ・キリコの行燈の武者絵及び浮き字の制作

来年度、祭りの開催は難しいと考えられるが、キリコのメンテナンスを続ける必要がある。栗津地区のキリコの行燈には武者絵や浮き字の装飾が施されており、栗津地区の方々の手で定期的に貼り換え作業がなされている。このような行燈の制作などのキリコの修繕作業を学生を交えて継続していく。

- ・キリコやお囃子の披露会

学生とともに制作した行燈を取り付けたキリコを栗津地区や県立大学の大学祭などで披露し、お囃子の演奏も行い、祭りを開催できないながらも祭り文化を継承し披露できるイベントを企画する。

- ・祭りのアーカイブ化

祭り文化に関して特にこれまで住民同士で暗黙知として共有されてきたものが地震の影響で急速に喪失する可能性があり、住民への聞き取りなどを積極的に行い祭りのアーカイブ化を早急に進める。

## 6. 活動に対する地域からの評価

栗津地区自彊団の濱山隆浩氏から、以下のような評価をいただいた。

「今年度はコロナ禍前と同じように祭りを開催することができ、去年からの篠笛や太鼓の成果を披露する事ができて良かった。練習時間や練習場所の確保で苦勞したと思うが、参加したという経験、祭りの時間を体験してもらえて嬉しかったです。次に祭りが出来る時には、今年度以上の成果が得られることを期待しています。」